

## ワイヤー矯正の副作用とリスク

### 矯正装置が直接的な原因となるもの

・矯正中、舌の動きがスムーズにいかないことがありますが、多くの場合、しばらくすると慣れます。・装置の装着中は発音しづらいことがあります。・一般的なワイヤー矯正は、歯の表面に器具を装着します。・矯正治療中に装置が当たることで頬の内側に傷がついたり、口内炎になったり、歯の移動に伴う違和感や痛みを生じることもありますので、必要に応じワックスで対処する場合やその他の対処策を行う場合があります。・矯正装置を装着した直後や、ワイヤーを交換した直後に痛みを感じるがありますが、多くは数日でおさまります。また、冷たいものを飲んだときにしみる「知覚過敏」があらわれる場合がありますが、数日で改善されます。長期間痛む場合は、歯科医師に相談しましょう。

### 金属アレルギー

・矯正装置には、さまざまな金属素材が使用されているため、金属アレルギーのある方、不安がある方は、皮膚科で行われているパッチテストをうけて、アレルギー材料を特定し、歯科医師に伝えてください。矯正装置を装着したあとに、皮膚や口腔の粘膜にアレルギー症状が起きた場合は、速やかに歯科医師の指示を仰いでください。

### 抜歯・麻酔

・矯正をしたい箇所に十分なスペースがない場合は、抜歯を必要とする場合もあります。健康上問題のない歯の抜歯の場合もあります。・抜歯する場合は麻酔注射を行います。麻酔の中には、成分に心拍数、血圧を上げる作用があるものもあるため、心臓や血圧に問題がある方が使用すると、動悸、血圧上昇を起こす場合があります。また、頬を噛んでもわからない、熱さがわからないため、口腔内をやけどするなど、傷を生じるリスクがあります。さらに、麻酔によって悪心、嘔吐、アレルギー反応が起こることもあります。

### 虫歯・歯周病

・矯正中、虫歯などが生じる場合があります。治療終了後に虫歯の治療をする場合と器具を一度外して虫歯の治療を行う場合があります。・矯正治療中、矯正装置の周りなど、ブラッシング（歯磨き）しにくい部分ができるため、虫歯や歯肉炎などのリスクが高くなります。間食を控え、矯正治療中に合ったブラッシング指導を歯科医師より受けて、毎日丁寧なブラッシング、歯を清潔にしてリスクを抑えましょう。また、歯科医院で歯をクリーニングすることや、フッ素塗布など、歯科医院でのケアも役立ちます。・矯正中は、基本的に虫歯や歯周病の治療が行えないため、矯正前にこれらの治療を終わらせる必要があります。このため、一般歯科で虫歯、歯周病などの治療を行う必要もあります。

### 治療終了後

・矯正終了後に矯正箇所が元に戻る（後戻り）場合があります。・矯正終了して数か月から数年経過するとかみ合わせが悪くなる可能性があります。かみ合わせが悪くなると、咀嚼障害、頭痛、肩こりを招く事があります。また、かみ合わせのバランスが崩れることで、開口障害、顎関節症を発症する場合があります。他にも自律神経失調症になることもあります。かみ合わせが原因の場合は、かみ合わせの治療が必要になることがあります。

## その他

・矯正中、頭痛、首や肩のこり、強い倦怠感、吐き気、不眠など不定愁訴が起こる場合がありますので、鎮痛剤、吐き気止め等、歯科医師の指示のもと服用する場合があります。・治療中と治療後の見た目に個人差が大きくあらわれる治療です。また、歯科医師との見解の相違も起こりえます。歯科医師とよくご相談ください。・歯の根が短くなる「歯根吸収」が起こることがあります。これには、歯根の形態や、その周りの骨密度など、様々な原因があります。・歯や骨の状態、歯の動きを妨げる癖があった場合、虫歯や歯周病の発生など、治療計画よりも治療期間が長くなる場合があります。・矯正治療では、歯肉が下がる場合（歯肉退縮）があります。特に切歯（せっし：上下前歯各4本）、歯の凸凹が大きい患者様の場合、発症する事があります。・治療期間には個人差があります。・固いものが咬みにくくなる場合があります。また、ガムや餅など、装置に引っかかるものが食べにくくなるこ

とがあります。・装置が壊れることがあります。その際は歯科医院を受診してください。・個人差があり、かなりのストレスを受ける患者さんもいます。・矯正中は、器具を装着するため、食べかすが詰まりやすく虫歯、歯周病などを生じやすくなります。・虫歯や歯周炎が発生すると、一旦装置を取り外して歯科医院で治療をする場合もあります。・患者様が、取り外しできる矯正装置や補助装置の装着時間を守れない、定期的な来院ができないなどの場合、治療期間が延びる場合があります。・特殊な噛み合わせ、骨の硬さ、歯のかたちの場合は、治療期間が長くなる場合があります。・舌で歯を押し癖や、歯並びに悪影響をあたえる癖が改善されない方は、治療期間が延びる場合があります。・矯正治療で歯を動かして歯並びを整える「動的治療」を終えて歯並びが改善されても、まだ歯が元の位置に戻ろうとする傾向があるため、一定期間動かした歯をとどめる＜保定＞が必要です。歯の位置が安定するまでの保定期間には個人差があるので、治療後も歯科医師の指示を守ってください。・矯正終了後に矯正箇所が元に戻る場合もあります。